

編集/発行 小田原市立図書館 小田原市城内7-17 TEL0465-24-1055  
かもめ図書館 小田原市南鴨宮1-5-30 TEL0465-49-7800  
e-mail: tosho@city.odawara.kanagawa.jp



## 今年もやります！「本のりさいくるフェア」！！

図書館でいらなくなった本や雑誌を無料でお持ち帰りいただき、市民の皆さんの読書活動に役立てていただく「本のりさいくるフェア」を今年も開催します！

毎年好評いただいている、この「りさいくるフェア」ですが、今年は約1万冊の本・雑誌をご用意いたしました。お誘い合わせの上、どうぞお気軽にお越しください！

なお、開催に当たりましては「かもめ図書館フレンズ」および「小田原の図書館を考える会」の皆さまのご協力をいただいております。

- ・日 時：平成22年2月28日（日） 9時～16時（本がなくなり次第終了になります）
- ・場 所：小田原市立かもめ図書館（小田原市南鴨宮1-5-30） 2F 集会室・創作室
- ・問合せ先：TEL：0465-49-7800

※ 当日は大変混雑が予想されます。来館の際は公共交通機関をご利用ください。



## 今年、「国民読書年」です。キャッチフレーズは「じゃあ、読もう。」

「国民読書年に関する決議」(※)が、平成20年(2008年)6月6日に衆参両院全会一致で採択されました。この国会決議では「文字・活字文化振興法」の制定・施行5周年にあたる2010年を「国民読書年」に制定し、政官民協力のもとで国を挙げてあらゆる努力を重ねることを盛りこんでいます。

(※)文字・活字によって、人類はその英知を後世に伝えてきた。この豊穡で深遠な知的遺産を受け継ぎ、更に発展させ、心豊かな社会の実現につなげていくことは、今の世に生きる我々が負うべき重大な責務である。しかし、近年我が国でも「活字離れ」と言われて久しく、年齢層を問わず、読書への興味が薄れていると言わざるを得ない。これが言語力、読解力の衰退や精神文明の変質の大きな要因の一つとなりつつあることは否定できない。(中略)1999年に「子ども読書年に関する決議」を両院で採択、2001年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」を立法、さらに2005年には「文字・活字文化振興法」を制定し、具体的な施策の展開を推し進めてきた。それらに呼応して「朝の十分間読書運動」の浸透、読書の街づくりの広がり、様々な読書に関する市民活動の活性化など、読書への国民の意識は再び高まりつつある。この気運を更に高め、真に躍動的なものにしていくため、2010年を新たに「国民読書年」と定めたいと思う。これにより、政官民が協力し、国をあげてあらゆる努力を重ねることをここに宣言する。

読書は人生を豊かなものにしてくれます。皆さん、これを機に本を読みましょう。図書館はあなたのご来館をお待ちしております。

## 星崎記念館開館50周年記念事業のご報告

今年の「セピア色の写真展」のテーマは、「写真で見る星崎記念館50年の歩み」でした。11月13日（金）から11日間はかもめ図書館、その後、11月26日（木）から32日間は市立図書館にて、星崎記念館ゆかりの写真を展示しました。「こども科学展展示会」や「郷土作家の美術展」、子どもたちを本の世界へ案内する「よみきかせ」の風景など、一瞬、一瞬を切り取った多彩な写真を展示し、多くの皆さんにご覧いただきました。

「移民の先駆者～星崎定五郎～と、アメリカ移民の足跡」を、白百合女子大学教授の桑井輝子さんに、また、「星崎記念館の半世紀」～地域文化の発展に果たした役割～を、元小田原市立図書館長の川添猛さんにお話していただいた「図書館総合歴史講座」も、盛況のうちに終わることができました。お二人の豊富な知識と、どなたにも分かりやすいお話は、来場された皆さんに大変好評でした。

市立図書館こどもクラブ『星の子クラブ』の子どもたちは、10月は「木の実の工作」で、木の实を使って人形やじろべえ、アクセサリーなどを作り、11月は「移民カルタ&紙芝居」で、アメリカへ移民として渡られた星崎定五郎氏にちなみ、移民について学びました。これからもいろいろな行事を予定しています。登録お申し込みは、随時受付中です。

皆様の思いが詰まった一冊、星崎記念館が開館50周年を迎えるにあたっての「記念誌」の完成は、平成22年3月15日（月）を予定しています。星崎記念館に思い出をお持ちの皆様からお寄せいただいた原稿、記念事業や年表を掲載いたします。市立図書館・かもめ図書館、その他小田原市内の各図書施設において閲覧を予定しておりますので、ぜひ、お手に取ってご覧ください。

これからもどうぞ、小田原城址公園内にある星崎記念館のご利用をお願いいたします。

### 小田原と文学 川崎長太郎①

明治34年12月、小田原町万年に生まれた。生家は魚屋で、旧制小田原中学に進学したが、1年で中退した。退学後は生家の商売を手伝っていたが、そのうちに小学校の教師をしていた詩人福田正夫に感化され、詩に親しむようになり、次第に文学に染まるようになっていった。当時小田原にやってきたアナキスト加藤一夫の影響もあってついに家を出て上京、文学一筋の道を進むようになった。しかし生活の苦勞は最初からつきまとい、安下宿を転々とする中で執筆活動を続けた。

この頃徳田秋声、宇野浩二と親しみ、徳田の推薦で昭和10年の『余熱』その他が第2回の芥川賞の候補となった。

戦時中に小田原に戻った川崎は生家近くの電気や水道も無い物置小屋に居住しながら、新聞・雑誌に短文を掲載して生活していたが、戦争末期には海軍に徴用されて小笠原・父島に渡った。戦後復員して物置小屋での生活に戻り、執筆を再開した中でいわゆる『抹香町』ものと呼ばれる一連の作品で流行作家の一人となった。晩年脳溢血により右半身に障害を持ったが、ペンを左手に持ち替えて執筆を続けた。

### ◆本の予約状況（1月4日現在）

順位	書名（著者名）
1	1Q84 BOOK1（村上春樹）
2	新参者（東野圭吾）
3	1Q84 BOOK2（村上春樹）
4	パラドックス13（東野圭吾）
5	告白（湊かなえ）
5	フリーター、家を買う。（有川浩）
7	贖罪（湊かなえ）
8	終の住処（磯崎憲一郎）
9	ヘヴン（川上未映子）
10	デパートへ行こう！（真保裕一）

お願い：上記の本をお持ちで、読み終えてご不要になられた方は、ぜひ図書館にご寄贈ください。

### ◇ 情報発信コーナー／企画展示（市立）企画展示のコーナー（かもめ）◇

#### 市立図書館（一般／児童）

- 1月 料理（その2）／おおゆき こゆき 雪
- 2月 世界の鉄道／バーニンガム&DWジョーンズ
- 3月 日本の名城・古城／いろいろな木

#### かもめ図書館（一般）

- 1月 「竜馬伝」の世界
- 2月 バンクーバーオリンピック
- 3月 読後スッキリ！の小説

#### かもめ図書館（児童）

- 1月 歴史・風習／飯野和好
- 2月 世界の国々／アンソニー・ブラウンほか
- 3月 「あの人の絵本」／かがくい ひろし 他